

トマトにおけるシルバーリーフコナジラミの寄生部位

シルバーリーフコナジラミ成虫は、時期やトマトの生育ステージに関係なく、トマトの上位、中位、下位葉のいずれの葉位にも寄生する。また、トマト黄化葉巻病の発病株は、株全体が伝染源となる。

農業研究センター 生産環境研究所 病害虫研究室 (担当者: 古家 忠)

研究のねらい

トマト黄化葉巻病の病原ウイルスTYLCVは、媒介虫シルバーリーフコナジラミのみにより伝搬される。そのため、本病の感染防止のためにはシルバーリーフコナジラミの防除が重要であるが、的確な防除を行うためにはその発生生態の解明が必要である。そこで、シルバーリーフコナジラミの発生生態に基づいたTYLCV感染防止技術を確立するため、トマトにおけるシルバーリーフコナジラミ成虫の寄生部位を解明する。

研究の成果

1. シルバーリーフコナジラミ成虫は、時期やトマトの生育ステージに関係なく、トマトの上位、中位および下位葉のいずれの葉位にも寄生し、特定の葉位だけに寄生することはない(図1)。
2. トマト黄化葉巻病が発病した株においては、症状がでていない中位葉からも病原ウイルスTYLCVが検出される。このことから、発病株は株全体が伝染源となる(表1)。
3. 以上のことから、シルバーリーフコナジラミ成虫の防除にあたっては、株全体の葉裏に薬剤が付着するように散布することが必要であり、また、感染の拡大を防ぐためには発病株の除去が必要である。

普及上の留意点

1. 薬剤散布にあたっては、葉裏に薬剤が付着するように十分な量をていねいに散布する。
2. 発病株は直ちに抜き取った後、ハウス外に持ち出し、埋設またはビニル等による密閉を行い、シルバーリーフコナジラミ成虫が寄生しないようにする。

[具体的データ]

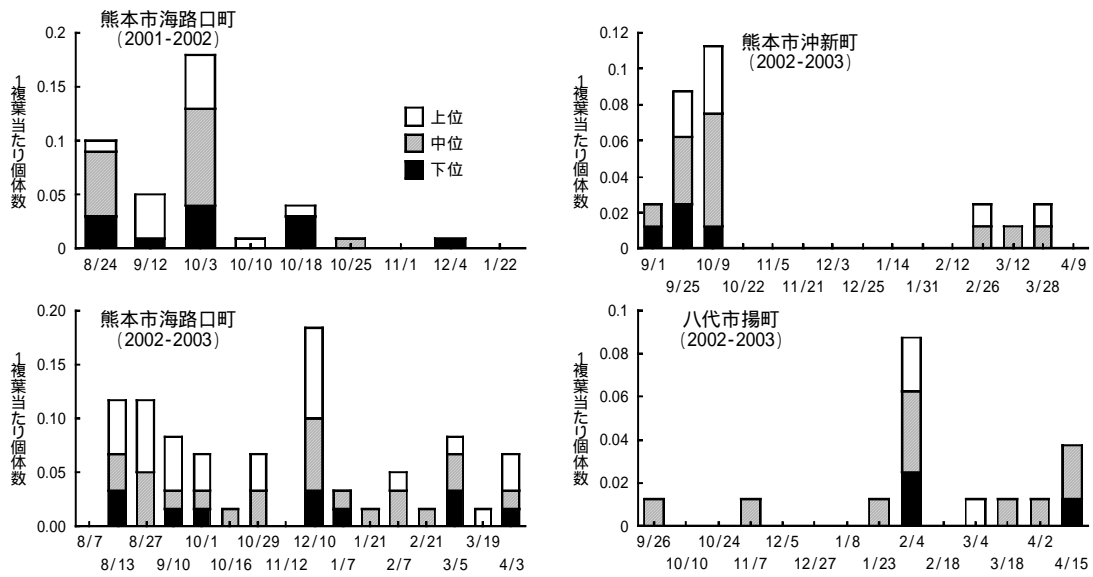


図1 トマトにおけるシルバーリーフコナジラミの寄生部位

熊本市海路口町：8月上旬定植、熊本市沖新町：8月下旬定植、八代市揚町：9月上旬定植
 上位：頂部から4～5枚目の葉、中位：株中位の成熟した葉、下位：株下位のやや老化した葉

表1 TYLCVが検出される葉位

	症状	検定によりTYLCVが 検出された株数
上位葉	あり	10
中位葉	なし	6

10株の発病株について、症状のでている上位葉および症状のでていない中位葉から各1小葉を採集し、PCRにより検定した。